

事後評価シート

事業名	道整備交付金事業		事業課名	森林経営課
箇所名	基幹林道 十根川～三方界線		市町村名	椎葉村
事業費	3,946百万円	昭和61年度～平成28年度	評価実施年月	令和4年度

1 全体計画

起点：椎葉村大字下福良 全体延長 L = 24,441.7 m
 終点：椎葉村大字不土野 幅員 W = 4.0 m

凡例
黄色枠内：利用区域

2 事業目的

椎葉村大字下福良と大字不土野とを結ぶ利用区域2,499haの森林内に

- ①効率的な森林経営や森林の適正な管理
- ②災害時における奥地集落の迂回路的機能の発揮
- ③県内外からの森林の総合利用を目的としたアクセス道としての機能を果たすの路網の骨格となる基幹道を開設することを目的とした。

3 事業効果の発現状況等

○費用対効果 (B/C)

総便益 (B)		総費用 (C)	
項目	金額 (千円)	項目	金額 (千円)
木材生産等便益	1,401,823	事業費	13,301,681
森林整備経費縮減等便益	12,467,503	合計	13,301,681
森林の総合利用便益	12,432	総便益 (B) / 総費用 (C) <u>1.12</u>	
災害等軽減便益	992,505		
合計	14,874,263		

○林業生産性の向上（コスト縮減）

林道十根川～三方界線の開通により森林施業地までの到達時間の短縮や、林業機械の導入等による労働力の低減が図られた。



森林整備計画

区分	H28～R2	
	計画 (ha)	実績 (ha)
主伐	10.0	15.51
間伐	70.0	11.32
造林	7.0	15.51
保育	31.0	102.00
計	118.0	144.34

※計画は、H27林野庁予算ヒアリング時。

○ 交通ネットワークの強化

林道が開通したことにより、森林施業の作業効率が向上するとともに、国道265号、村道椎葉・矢部線、松木線と接続することで、地域の生活道として、また、災害時の迂回路としての機能が強化されるとともに、扇山登山客が村内外から訪れている。さらに、地元住民への聞き取り調査でも地域振興への貢献に高い評価が得られている。



起点(国道265号からの接続箇所)

扇山登山客数	
R2	243人
R1	508人
H30	250人
H29	443人
H28	421人

(R2、H30の山開きは中止。)



【椎葉村による住民への聞き取り調査結果】

- ① 山林へ入るための道路がなかった区域だったため、伐採や手入れの目処が立った。
- ② 災害が発生したときの迂回路になった。
- ③ 扇山への登山道があるため、村内外から多くの観光客が訪れている。

4 事業による環境の変化や環境の保全

本事業に関して、土壌の流出や植生の変化は見受けられず、地元からの河川の濁水や動植物等への影響についての意見は出ていない。

5 施設の維持管理状況

本路線の開通後は、平成28年度から管理者の椎葉村が、必要な舗装及び改良を行うとともに、台風等による被害が発生した際には、林道災害復旧事業により早期復旧を行うなど、各種制度事業を活用し適切に管理されており、維持管理について評価できる。



【維持管理状況】

区分	実施年度	延長(m)	事業費(千円)
舗装	H28, 29	719.7	18,012
改良	H30, R1	162.0	25,800
災害復旧	H29～R3	189.0 (11箇所)	103,747

←令和元年度地方創生道整備推進交付金事業により、崩落の恐れのある法面を改良した箇所

6 今後の事後評価の必要性

当該区間の整備により、林業生産活動に係るコスト縮減や林業従事者の施業環境の改善など、十分な効果が発揮されており、更なる事後評価の必要性はないものと考えられる。

7 改善措置の必要性

森林施業の作業効率が向上するとともに、国道等と接続することで地元の生活道として、また迂回路としての機能が強化されており、今後の改善措置の必要性はないものと考えられる。

8 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の必要性

特になし。